

鳥のおはなし絵本

# かるがものクッカ

箕輪義隆・絵 かんちくたかこ・文



やっとわれた！ 見上げると、大きなくちばし。  
わたしをそつとなでてくれたの。  
「はじめまして、お母さんですよ」



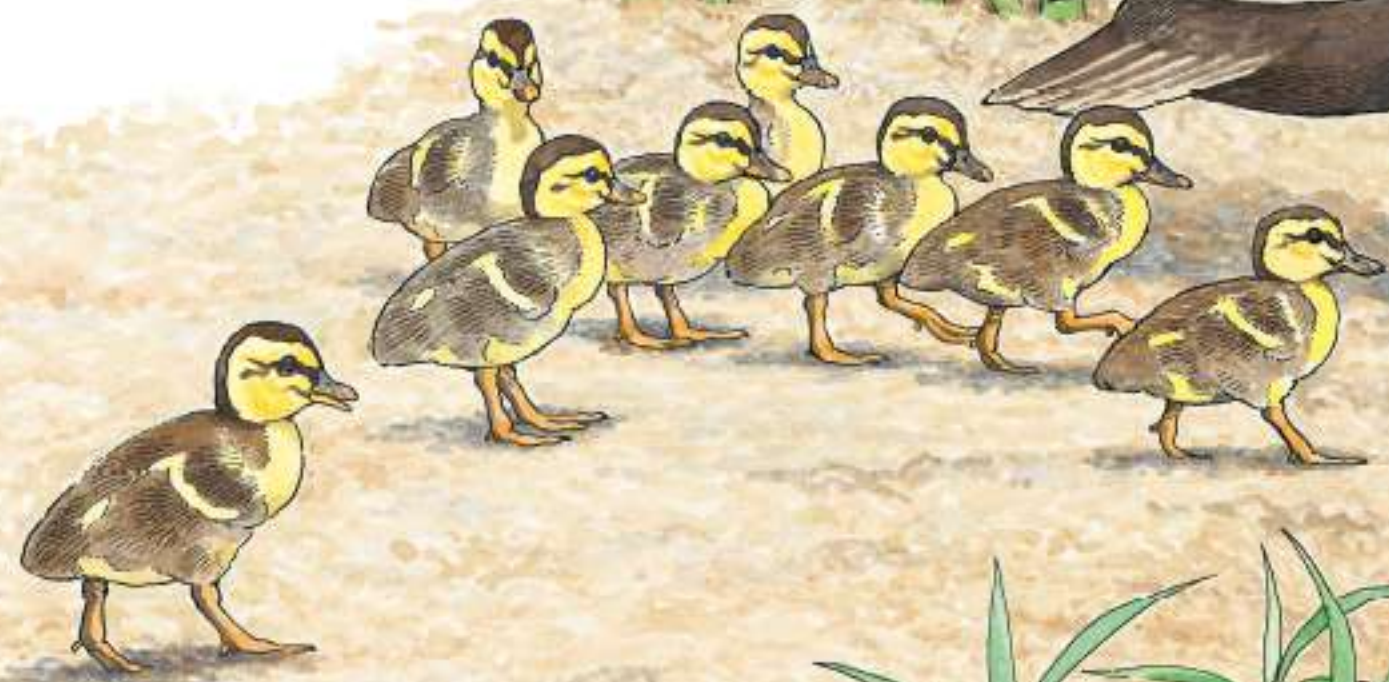
わたしクッカ。カルガモだよ。  
8羽きょうだいの6番目に生まれたんだ。

きょうだいみんながたまごからかえると、  
「さあ、子どもたち、川にいけますよ」  
お母さんが歩きだした。

きょうだいたちは、はねるようについていった。

わたしは、よちよち、  
巣のふちをのりこえて、追いかける。

「お母さん、まってー！」







よかった。

すぐからだかういて、泳げたよ。

お母さんのいうとおりだ！

「ネコやキツネのような敵は入ってこないから、  
水の中のほうが、ずっとあんぜんですよ。

でも、お母さんからはなれないようにね」

「うん！」



川につくと、お母さんはすうっと水に入った。

きょうだいたちも、ちゃぽっ、ちゃぽっととびこんだ。

「こわいよ、お母さん」

「わたしたちカモは、生まれてすぐに歩けるし、泳げるの。こわくないですよ」

きょうだいたちは、すいすいと、お母さんのまわりを泳いでいる。

「まってー！」

目をつぶって、息をすって、おぼれませんか……ちゃぶん！



お母さんは、川をすすみながら、  
食べられる草や食べかたを教えてくれる。

お母さんのまねをして、  
草をひっぱって、ぱくり！



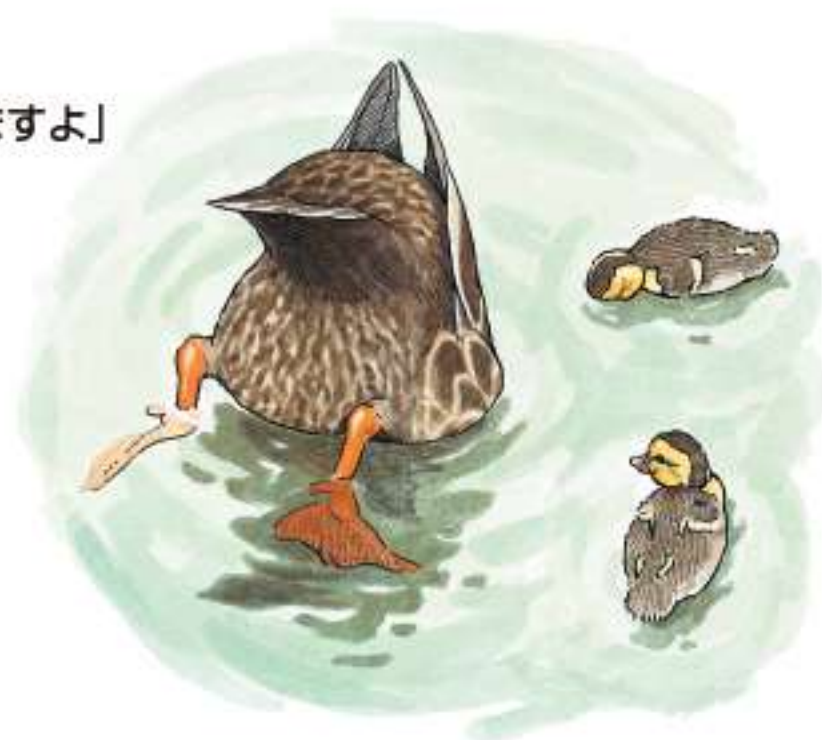
はやく、お母さんみたいに、  
なんでもできるようになりたいな。  
だから、今日も  
さかだちのれんしゅう。  
むちゅうになって、もぐっていたら、  
あれ、みんなは？  
たいへん、あんな遠くに！



うき草を食べるときは、  
くちばしをふるふるさせる。  
「早く大きくなるよう、虫も食べるのですよ」  
「はい」

川をわたって追いかける。  
けどとちゅうで、ながれがつよくなった。  
いっしょうけんめい泳いだけれど、  
どンドン、はなれちゃう。  
「お母さーん！  
ピーピー、お母さーん！」

「川のそこには、おいしい水草がありますよ」  
そういって、お母さんは、  
さかだちするみたいに、水の中へ。  
「わたしも！」  
でも、お母さんのようには、  
じょうずにできなかつた。





ずんずんながされて、  
広いところにきちゃった。  
もう、お母さんに会えないのかな？  
どうしよう、どうしよう……

黄色い目の鳥が、  
ぎろりとらんで、  
ざぶんともぐった。



大きな鳥が  
「お母さんは、どうしたね？」  
と、よってきた。

「チーッ」となく声に見上げると、  
くちばしの大きな青い鳥。

黄色いあしの鳥が、葉っぱの上を歩いてきた。  
まっ黒なひなたちが、  
「まいご？」  
「ひとりは、あぶないんだよ」  
っていったの。

わたしは、こわくて、さみしくて、  
いっしょうけんめい、  
お母さんをよんだ。  
「ピーピー、ピーピー」

